

## 第9回揮発性有機化合物(VOC)排出インベントリ検討会 議事要旨(案)

1. 日時 平成20年9月11日(木) 10:00～12:00
2. 場所 主婦会館プラザエフ 7階 カトレア
3. 議題
  - (1)平成20年度における揮発性有機化合物(VOC)排出インベントリ検討会の進め方について
  - (2)用途不明分の実態の把握方法について
  - (3)その他の排出量の不確実性の改善方法について
  - (4)大気汚染防止法に基づく届出データの法令取扱分類別 VOC 排出量の推計への活用方法について
  - (5)モニタリングデータの解析を踏まえた推計精度の改善方法について
  - (6)その他
4. 出席者  
委員: 浦野委員長、泉委員、指宿委員、堀部氏(久米委員代理)、桐明委員、山本氏(柴田委員代理)、島田委員、高戸委員、南齋委員、野中委員、山口委員、油井委員  
オブザーバー: 海野氏(日本クリーニング環境保全センター)  
環境省: 早水大気環境課長、米田大気環境課長補佐  
事務局: 社団法人 環境情報科学センター
5. 議事内容  
事務局より、「平成20年度における揮発性有機化合物(VOC)排出インベントリ検討会の進め方について」説明があり、議論が行われた。主な検討結果は以下のとおり。
  - ・ 「業種内訳の把握」に関する課題において、「パルプ・紙・紙加工品製造業、窯業・土石製品製造業」の2業種を挙げているが、上記2業種以外にも問題があると考えられる点があるため、限定すべきではない。  
事務局より、「用途不明分の実態の把握方法について」説明があり、議論が行われた。主な検討結果は以下のとおり。
  - ・ 溶剤の具体的な物質を把握する際には、主なブレンド品や組成を把握できるようにすべきである。
  - ・ 「最終需要家」等の表現は理解されない可能性があるため、「商社やブレンド・小分け会社への販売量は除く」などとすべきである。
  - ・ 正確な数値が把握できるときは、有効数字1桁か2桁で構わないので、生の数値を記入してもらい、不明の場合に限ってランクで回答するなど、精度へ大きく影響する数値について正確に把握できるよう工夫をすべきである。

事務局より、「その他の排出量の不確実性の改善方法について」説明があり、議論が行われた。主な検討結果は以下のとおり。

- ・ 使用量を把握しようとする場合には、商社向けのアンケート同様、おおよその使用量やランクでの回答を可能とすべきである。

事務局より、「大気汚染防止法に基づく届出データの法令取扱分類別 VOC 排出量の推計への活用方法について」説明があり、議論が行われた。主な検討結果は以下のとおり。

- ・ 届出データを収集する際には、届け出られた内容の対象年度に留意する必要がある。
- ・ 届出書に記載された濃度データは理論値の可能性が高いため、届出データの濃度データと測定値に大きな乖離があった場合には業界団体等へ問い合わせを行うべきである。

事務局より、「モニタリングデータの解析を踏まえた推計精度の改善方法について」説明があり、議論が行われた。主な検討結果は以下のとおり。

- ・ 石油系混合溶剤などは個別の成分が不明の場合における用途の把握方法を検討する必要がある。
- ・ 濃度と排出量の関係から、自動車排ガスなどの影響を考慮したうえで、インベントリの構成比を検証する方が望ましい。

#### < 配付資料 >

第9回 揮発性有機化合物(VOC)排出インベントリ検討会 座席表

平成20年度揮発性有機化合物(VOC)排出インベントリ開催要綱

資料1 平成20年度揮発性有機化合物(VOC)排出インベントリ検討会の進め方(案)

資料2 溶剤の用途不明分に係る実態の把握方法(案)

資料3 その他の不確実性の問題点に係る改善方法(案)

資料3-1 食品等の製造時に漏えいするアルコール排出量の把握方法(案)

資料3-2 粘着剤・剥離剤等の使用に係るVOC排出量の捕捉率の把握方法(案)

資料3-3 グラビア、オフセット以外の印刷インキの使用に係る大気排出率の把握方法(案)

資料4 大気汚染防止法に基づく届出データの法令取扱分類別 VOC 排出量の推計への活用方法(案)

資料5 モニタリングデータの解析を踏まえた推計精度の改善方法(案)

参考資料1 「揮発性有機化合物(VOC)排出インベントリについて(報告)」(委員限り)

参考資料2 「揮発性有機化合物(VOC)排出インベントリ(平成18年度)」(委員限り)

以上